

事務事業実績測定調書

R5調書番号 141

事務事業名称	保健センター維持管理事業									
測定年度	2023(R5)年度		部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標		2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標		6.誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち							
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	内部事務	区分	一般内部管理事務
事業期間	1987(S62)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市保健所条例・枚方市保健所条例施行規則				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	保健センターを利用する市民			
	サブターゲット	保健センター職員			
	ターゲットが抱える課題	健康に関する様々なニーズで保健センターを利用するため、適正に設備・建物の管理をする必要がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	安心して安全快適に保健センターを利用できる。				
事業概要	保健センターにおける各種事業が円滑に行われるよう設備・建物を適正に管理する。 施設管理に関する委託事業： ・清掃委託 ・警備委託 ・冷暖房設備保守点検委託 ・自家発電設備保守点検委託・環境測定業務委託 ・防災設備保守点検委託 ・受水槽、高架水槽清掃委託 その他				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
			保健センターが適正に維持管理されている。				必要な保守点検等を実施する。			
指標設定	指標説明		修繕料、補修工事費に係る当初予算額に対する決算額の割合。 【算出式:決算額/当初予算額×100】				保守点検実施件数			
					単位	%		単位	件	
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)		100	100	100	100	53	53	53	53
	実績		86	72.50	93	74.50	53	52	48	46
達成度			75%				87%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	1.10
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	6,050	4,765	8,685		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	6,050	4,765	8,685		
歳入	物件費計	53,726	51,910	104,591	122,458	85.4%
	歳出計	59,776	56,675	113,276		
	国庫支出金	2,952	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	2,384	67	48	60	
歳入	歳入計（物件費に充当される特定財源）	5,336	67	48	60	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	一般財源（物件費に充当されるもの）	48,390	51,843	104,543	122,398	

5. 総括的分析

総括的分析	開設から35年以上が経過し、建屋や敷地内の老朽化による不具合が相次いで生じている状況。小規模修繕の予算額の確保が求められる状況である。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	保全計画に基づいた工事の実施を行う。その他、保健所の移転前の、別館エレベーター設置を含むリニューアル工事を行い、継続的に安全に利用できるよう修繕を行っていく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 303

事務事業名称	母子保健事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	14.安心して妊娠・出産できる環境が整うまち									
	実行計画名	14-1.母子の健康づくりの推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	不明	年度	～		年度まで
根拠法令等	母子保健法				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	妊娠期から就学前の乳幼児			
	サブターゲット	妊娠期から就学前の乳幼児の保護者			
	ターゲットが抱える課題	成長過程で、発育、発達の助言や支援が必要になる場合がある。			
	ターゲットが抱える課題	身近な相談者がいないことにより、保護者が育児不安になるおそれがある。			
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	安心して、子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				
事業概要	①母子健康手帳交付事業:妊娠届出時に「母子健康手帳」等を交付。 ②母子健康教育・相談事業:多様な形態で母子の健康や子育てに関する相談事業及び健康教育を実施。 ③母子訪問指導事業:委託による助産師の訪問と、保健センター保健師等による訪問を実施。 ④乳幼児健康診査等事後指導事業(親子教室):乳幼児健診等の結果、経過観察の必要な幼児と保護者を対象に集団での指導を実施。 ⑤産後ママ安心ケアサービス(枚方市産後ケア事業):家族からの支援が受けられない等で支援が必要な産後4か月未満の母子を対象に、市内産科医療機関と助産所でショートステイ(宿泊型)、デイサービス(日帰り型)を実施。利用に際しては、母子保健コーディネーターが妊産婦等の相談を行い、産後ケア事業等の必要な支援につなげる。 ⑥母子保健推進連絡会:母子保健施策の充実・強化及び母子保健施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、関係機関・団体と連絡会を実施。 ⑦出産・子育て応援事業:妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近に相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型相談支援(妊娠届出時・出産後に助産師・保健師が妊産婦に面談、妊娠7か月アンケートの実施)を充実し、経済的支援(出産応援ギフト・子育て応援ギフトの支給)を一体として実施。 ⑧低所得の妊婦に対する初回産科受診料の助成:市民税非課税世帯の妊婦等に対し、妊娠判定のための診察にかかる費用を助成する。 ⑨成人歯科健康診査事業(直営) 対象:1歳6か月児健康診査と2歳6か月児歯科健康診査受診の保護者 内容 問診・口腔内診査・口腔衛生指導等 料金:無料				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				妊婦等が、妊娠届出時に保健相談を受ける。				妊娠届出を受理し、母子健康手帳を発行する。				
指標設定	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者 ÷ アンケート回答者 × 100】				妊娠届出時の保健相談実施率 【算出式: 妊娠届出時の保健相談回数 ÷ 妊娠届出数 × 100】				妊娠届出数				
	単位		%		単位		%		単位		件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	2,627	2,551	100	100	2,627	2,551	2,493	2,454
		実績	97.20	97	97	96	2,509	2,551	100	100	2,509	2,551	2,423	2,394
達成度		96%				100%				98%				

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル②		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				対象者が相談等を行う。				母子健康教育・相談事業を実施する。			
指標設定②	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式:該当者÷アンケート回答者×100】				相談者数				乳幼児健康相談および個別発達相談の実施回数			
		単位 %				単位 人				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	6,225	6,225	6,225	6,225	341	341	341	341
	実績	97.20	97	97	96	1,804	2,346	2,358	2,399	242	287	288	311
	達成度	96%				39%				91%			
ロジックモデル③		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				対象者が保健師等による訪問を受け、相談等ができる。				母子訪問指導事業を実施する。			
指標設定③	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式:該当者÷アンケート回答者×100】				保健師等の訪問による、対象者の相談件数				母子訪問指導を実施する、助産師や保健師の人数			
		単位 %				単位 件				単位 人			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	5,500	5,500	5,500	5,500	46	46	46	46
	実績	97.20	97	97	96	5,936	6,419	6,297	7,396	38	47	47	50
	達成度	96%				134%				109%			
ロジックモデル④		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				対象者が親子教室に参加する。				乳幼児健康診査等事後指導事業(親子教室)を実施する。			
指標設定④	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式:該当者÷アンケート回答者×100】				乳幼児健康診査等事後指導事業(親子教室)実在籍数				乳幼児健康診査等事後指導事業(親子教室)を実施回数			
		単位 %				単位 人				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	184	184	184	184	225	225	225	225
	実績	97.20	97	97	96	85	89	158	201	149	160	216	214
	達成度	96%				109%				95%			
ロジックモデル⑤		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				必要な対象者が市内産科医療機関と助産所でショートステイ(宿泊型)、デイサービス(日帰り型)を受けることができる。				産後ママ安心ケアサービスを実施する。			
指標設定⑤	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式:該当者÷アンケート回答者×100】				産後ママ安心ケアサービス利用延件数				産後ママ安心ケアサービス実施機関数			
		単位 %				単位 件				単位 件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	200	200	200	200	8	8	8	8
	実績	97.20	97	97	96	239	211	339	579	8	10	11	13
	達成度	96%				290%				163%			

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル⑥		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				関係機関・団体との連携が図られる。				母子保健推進連絡会を開催する。			
指標設定⑥	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				参加機関数				実施回数			
		単位 %				単位 件				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	100	100	100	100	9	9	9	9	1	1	1	1
	実績	97.20	97	97	96	9	9	9	9	1	1	1	1
	達成度	96%				100%				100%			
ロジックモデル⑦		安心して子どもを産み、健やかな育児ができ、乳幼児が心身ともに健やかに成長できる。				市民が成人歯科健康診査を受ける。				成人歯科健康診査事業を実施する。			
指標設定⑦	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				成人歯科健康診査受診者数				成人歯科健康診査実施回数			
		単位 %				単位 人				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	100	100	100	100	2,500	2,500	2,500	2,500	73	81	81	81
	実績	97.20	97	97	96	1,329	2,000	2,144	2,114	49	81	83	81
	達成度	96%				85%				100%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	19.20
再任用	0.00
任期付職員	0.08
会計年度任用職員	5.72
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	137,545	123,039	151,966		
	会計年度任用職員	23,251	20,358	28,650		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	160,796	143,397	180,616		
	物件費計	233,068	161,396	475,060	524,416	90.6%
	歳出計	393,864	304,793	655,676		
歳入	国庫支出金	14,498	188,512	310,799	314,209	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	2,889	23,969	70,573	78,914	
	受益者負担(使用料、手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	17,387	212,481	381,372	393,123	
	一般財源(物件費に充当されるもの)	215,681	0	93,688	131,293	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症が5類移行に伴い、事業参加の予約制は引き続き継続しながらも予約枠を拡充して実施した。特に産後ママ安心ケアサービスでは世帯状況に応じた減免を実施することで利用者が増え、産後すぐの支援の充実につながっている。活動効果指標である「この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合」も96%と安定した数値となっている。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、必要な時に助言や支援を受けることができ、安心して妊娠・出産・子育てができるよう取り組んでいく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 344

事務事業名称	身体障害児及び長期療養児等療養指導事業									
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名	15-4.健やかな育ちを支える仕組みづくり								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2014(H26)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	身体の機能に障害のある児及び慢性疾患により長期にわたり療養を必要とする児			
	サブターゲット	身体の機能に障害のある児及び慢性疾患により長期にわたり療養を必要とする児の保護者			
	ターゲットが抱える課題	児の障害や疾病の状況によって生活上の課題(移動、食事、排泄等)や発達の課題が異なるため、個々にあわせた専門的かつ具体的な助言を必要としている。			
	ターゲットが抱える課題	保護者は介護や通院によって多忙なため、支援サービス等の情報が得られにくい。			
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	適切な助言や情報提供を受けることによって、親子ともに安心・安全に生活を送ることができ、児の発育・発達が促される。				
事業概要	○身体の機能に障害のある児及び慢性疾患により長期にわたり療養を必要とする児に対し、その状況に応じた適切な指導を行い、日常生活における健康の保持・増進及び福祉の向上を図る。 内容:医師、歯科医師、心理相談員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、保健師等による健康診査及び相談を、来所または家庭訪問により実施する。 ○障害児歯科健康診査 対象:乳幼児健康診査に来所が困難な重症心身障害児・肢体不自由児・医療的ケア児 内容:1歳6か月、2歳6か月、3歳6か月の時期に、対象者の居宅又は保健センターにおいて、歯科診察・歯科保健指導・フッ素塗布・RDテスト(むし歯菌検査)を実施する。 料金:無料				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		親子ともに安心・安全に生活を送ることができ、児の発育・発達が促される。				対象者が健康診査や相談を利用する。				医師等専門職による健康診査及び相談を行う。			
指標設定	指標説明	医師等専門職による相談の割合 【相談実人数÷小児慢性特定疾病医療費助成申請者数×100】				医師等専門職による相談実人数				療育相談実施回数			
		単位 %				単位 人				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	30	30	30	30	100	100	100	100	56	56	56	56
	実績	—	37	20.7	36.8	—	137	100	174	67	54	53	35
達成度		123%				174%				63%			

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		親子ともに安心・安全に生活を送ることができ、児の発育・発達が促される。				対象者が歯科医師等の訪問による障害児歯科健康診査を受ける。				乳幼児健康診査に来所が困難な重症心身障害児、肢体不自由児、医療的ケア児を対象とした障害児歯科健康診査を実施する。				
指標設定②	指標説明	医師等専門職による相談の割合 【相談実人数÷小児慢性特定疾病医療費助成申請者数×100】				障害児歯科健康診査受診者数				障害児歯科健康診査実施回数				
		単位		%										単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	30	30	30	30	14	14	14	14	7	7	7	7
		実績	—	37	20.70	36.80	10	4	9	6	6	3	5	6
達成度		123%				43%				86%				

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	2.18
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額 (千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	10,607	12,109	17,211		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	10,607	12,109	17,211		
歳入	物件費計	569	399	358	831	43.1%
	歳出計	11,176	12,508	17,569		
	国庫支出金	0	431	179	415	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	434	431	179	415	
一般財源（物件費に充当されるもの）		135	0	179	416	

5. 総括的分析

総括的分析	本児業の対象児は、重度の心身障害や免疫低下があり、感染症が重症化する恐れのある児も含まれている。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、生活制限も緩和されたため、流行前の相談者数に戻りつつある。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	本児業の対象児に積極的に相談利用勧奨を行い、感染・安全対策を徹底し、安心して相談を受けてもらえる体制で実施していく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 355

事務事業名称	家庭児童相談業務										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名	15-1.子育て支援の充実									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1966(S41)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	児童福祉法第10条第1項第3号、市町村児童家庭相談援助指針				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	プレイセラピー、発達検査、心理検査などを必要とする18歳未満の子ども。			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	18歳未満の子どもを養育する家庭の育児不安や家族関係、子どもの発達、児童虐待等様々な悩みを抱えている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	家庭における安定した養育ができることにより、適正な親子関係を育むとともに、児童虐待の予防・防止にもつながる。				
事業概要	子どもへのプレイセラピー・発達検査・心理検査や保護者への助言・カウンセリングを実施。 児童虐待の防止や対応を行っている。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		家庭における安定した養育ができることにより、適正な親子関係を育むとともに、児童虐待の予防・防止にも繋がる。				各種検査や相談等を通じて、子どもの抱える課題等が把握できる。				18歳未満の子どもに対し、プレイセラピー等を必要に応じて実施する。			
指標設定	指標説明	家庭における安定した養育ができることにより、適正な親子関係を育み、相談終了となった件数。				18歳未満の子どもに対し、プレイセラピー等を必要に応じて実施した延べ相談件数。				18歳未満の子どもに対し、プレイセラピー等を必要に応じて実施した新規相談件数。			
		単位 件				単位 件				単位 件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	167	167	167	167	4,875	5,015	5,315	5,635	350	315	315	315
	実績	188	147	269	134	5,365	6,451	7,257	7,257	305	278	354	375
	達成度	80%				129%				119%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	1.62
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	3.70
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	29,857	15,936	12,790		
	会計年度任用職員	21,916	13,408	18,872		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	51,773	29,344	31,662		
歳入	物件費計	372	148	337	195	172.8%
	歳出計	52,145	29,492	31,999		
	国庫支出金	193	77	156	156	
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	193	77	156	156	
一般財源（物件費に充当されるもの）		179	71	181	39	

5. 総括的分析

総括的分析	所属や関係機関との連携により新規相談が増加したと思われる。子どもを養育する家庭の様々な悩みに寄り添い、継続的な支援に取り組んだ。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	家庭における安定した養育につなげられるよう、引き続き、丁寧な相談支援を重ねるとともに、相談員のスキルアップに努める。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 356

事務事業名称	土日夜間電話相談事業											
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部				課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名	15-1.子育て支援の充実										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2004(H16)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	母子及び寡婦福祉法				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	育児に対し不安を抱える18歳未満の子どもを持つ保護者			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	子育てについての相談や適切なアドバイスが得られるような支援者がいないなど、育児に対する不安を抱えている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	夜間や休日でも気軽に相談できる場を設けることで、育児不安などの解消し、安定した子どもの養育ができる。				
事業概要	ファミリーポートひらかたにおいて、土日・夜間電話相談を実施することにより、あらゆる子育てに関する相談受付やアドバイスを行っている。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		育児不安等が解決することにより、安定した子どもの養育ができる。				相談を通じて、対象者の育児不安等が解決するよう適切に対応する。				育児に対し不安を抱える18歳未満の子どもを持つ保護者を対象に夜間や休日に電話での相談を適切に受け付ける。			
指標設定	指標説明	土日夜間電話相談の完了割合 【算出式:相談が完了した件数/相談を受けた件数×100】				育児に対し不安を抱える18歳未満の子どもを持つ保護者を対象に夜間や休日に電話での相談を受けた件数。				土日夜間電話相談実施日数			
		単位 %				単位 件				単位 日			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	360	360	360	360	360	360	360	360
		実績	100	100	100	372	440	395	288	365	365	241	366
達成度		100%				80%				102%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.03
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	0	0	237		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	0	0	237		
	物件費計	3,410	3,409	3,409	3,410	100.0%
歳出計		3,410	3,409	3,646		
歳入	国庫支出金	1,798	1,705	1,705	1,705	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	1,798	1,705	1,705	1,705	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	1,612	1,704	1,704	1,705	

5. 総括的分析

総括的分析	土日や夜間の緊急な相談に対応するため、必要な情報を提供できるよう、勉強会などを実施し、相談者の心の支えとなり、育児不安を抱える保護者の相談窓口として機能するよう取り組んだ。 相談件数については、昨年度より減少している。これは土日祝日や夜間の相談の場として令和4年度から開始しているLINEを通じた相談受付や母子父子福祉センターなどの相談窓口が広く知られるようになっているためと考える。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	広く周知し、相談ニーズに的確に対応する。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 357

事務事業名称	育児支援家事援助事業											
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部				課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名	15-1.子育て支援の充実										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2009(H21)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法第21条の10の2				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	3歳未満の乳幼児がおり、掃除、調理などの家事援助や沐浴補助、おむつ交換などの育児援助支援が必要な家庭。			
	サブターゲット	支援が必要な家庭の3歳未満の乳児。			
	ターゲットが抱える課題	保護者の養育の孤立化などにより、育児支援が必要であるにもかかわらず、自ら支援を求めることが難しい家庭への支援。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	良好な親子関係を育み、安定した乳幼児の養育ができる。				
事業概要	3歳未満の乳児がいる支援が必要な家庭に対し、掃除、調理などの家事援助や沐浴補助、おむつ交換などの育児援助を行うとともに、子育て情報の提供を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		支援計画どおり支援を行うことにより、良好な親子関係を育み、安定した乳幼児の養育が出来る。				対象の家庭について、育児援助や子育て情報の提供等、適切な支援となる訪問を行う。				3歳未満の乳児がいる支援が必要な家庭を決定する。				
指標設定	指標説明	支援対象全世帯における訪問割合 【算出式:延べ訪問回数/延べ訪問計画回数×100】				支援対象全世帯に対する総訪問回数				支援が必要な世帯数				
		単位	%	単位	回	単位	世帯							
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	180	180	180	180	18	18	18	18
		実績	100	100	100	100	58	47	83	130	8	7	8	13
達成度		100%				72%				72%				

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.30
再任用	0.10
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,877	2,847	2,872		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,877	2,847	2,872		
歳入	物件費計	254	458	1,502	6,722	22.3%
	歳出計	3,131	3,305	4,374		
	国庫支出金	85	152	256	354	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	府支出金	0	152	805	899	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	85	304	1,061	1,253	
一般財源（物件費に充当されるもの）		169	154	441	5,469	

5. 総括的分析

総括的分析	令和5年度より、登録事業所が2か所から3か所に増加。利用件数増加につながった。母子保健課や他機関と連携し、支援を必要とする家庭に対し、早期に育児援助や子育て情報の提供等を行い、適切な支援につなげることができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、対象の家庭について、訪問等により、育児援助や子育て情報の提供等を行い、適切な支援を行う。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 358

事務事業名称	子育て短期支援事業											
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部				課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名		15-2.保育環境等の充実									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1996 (H8) 年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法第34条の9				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	(ショートステイ) 病気、出産、出張、公的行事への参加のため、養育が困難な保護者。 (トワイライトステイ) 恒常的に夜間や休日の仕事に従事するため、その間の家庭での養育が困難な保護者。			
	サブターゲット	(ショートステイ) 病気、出産、出張、公的行事への参加のため、保護者による養育が困難な子ども。 (トワイライトステイ) 恒常的に夜間や休日の仕事に従事するため、その間の家庭での保護者による養育が困難な子ども。			
	ターゲットが抱える課題	保護者の疾病や仕事などのため、一時的に家庭での子どもの養育ができない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	一時的に児童を保護・養育を行うことにより、保護者が安心して社会活動を行えるようになる。				
事業概要	保護者の疾病等により家庭における養育が一時的に困難になった場合、枚方市が委託契約している8か所の施設において、保護者の申し出により、一定期間預かっている。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		一時的に児童を保護・養育を行うことにより、保護者が安心して社会活動を行えるようにする。				(ショートステイ) 枚方市が委託契約している10か所の施設において、一定期間のショートステイの養育を適切に実施する。				(ショートステイ) 保護者の疾病等により、施設に預かってほしいという保護者のショートステイの申し出を適切に受理する。				
指標設定	指標説明	保護者がショートステイ・トワイライトステイの利用申し込みをし、利用できた割合 【算出式:利用した延べ日数/申し出延べ日数×100】				年間にショートステイを利用した延べ日数				保護者のショートステイの申し出利用延べ件数				
	単位		%		単位		日		単位		件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	540	540	540	900	540	540	540	900
		実績	100	100	100	100	634	775	844	919	634	775	844	919
達成度		100%				102%				102%				

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		一時的に児童を保護・養育を行うことにより、保護者が安心して社会活動を行えるようにする。				(トワイライトステイ) 枚方市が委託契約している10か所の施設において、一定期間のトワイライトステイの養育を適切に実施する。				(トワイライトステイ) 保護者の疾病等により、施設に預かってほしいという保護者のトワイライトステイの申し出を適切に受理する。			
指標設定②	指標説明	保護者がショートステイ・トワイライトステイの利用申し込みをし、利用できた割合 【算出式:利用した延べ日数/申し出延べ日数×100】				年間にトワイライトステイを利用した延べ日数				保護者のトワイライトステイの申し出利用延べ件数			
		単位		%		単位		日		単位		件	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	40	40	40	40	40	40	40	40
	実績	100	100	100	100	15	5	7	2	15	5	7	2
	達成度	100%				5%				5%			

3. 人員体制
(人)

	R5実績
正職員	0.70
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.60
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額
(千円)

			R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	10,214	8,593	5,527		
		会計年度任用職員	0	0	2,823		
		特別職非常勤	0	0	0		
		附属機関委員	0	0	0		
		人件費計	10,214	8,593	8,350		
	物件費計		7,589	7,734	8,479	9,766	86.8%
歳出計			17,803	16,327	16,829		
歳入	国庫支出金		1,457	1,660	2,104	3,563	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金		1,457	1,660	2,104	3,563	
	受益者負担（使用料、手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）		2,914	3,320	4,208	7,126	
一般財源（物件費に充当されるもの）			4,675	4,414	4,271	2,640	

5. 総括的分析

総括的分析	前年度に続き、ショートステイの利用が増加。引き続き、一時的に児童を保護・養育を行うことにより、保護者が安心して社会活動を行えるよう事業を実施する。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取り組み方針	引き続き、対象者に適切に周知を行い、支援につなげていく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 359

事務事業名称	児童虐待防止ネットワーク事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1998(H10)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	児童福祉法25条の2				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	保護者の看護が不十分であると認められる子どもや保護者の養育を支援することが特に必要と認められる子ども等			
	サブターゲット	庁内外の福祉・医療・教育等を担当する機関			
	ターゲットが抱える課題	児童虐待が発生した、あるいは発生しうる状況において、関係機関による虐待の予防・防止および早期発見が難しい。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	児童虐待に対し、関係機関の連携や研修会等の啓発活動を通じて児童虐待への理解と意識の浸透を図り、結果として発生予防、早期発見、早期対応が行われている状態。				
事業概要	・児童虐待の防止のための関係機関との連携 児童虐待問題連絡会議代表者会議 2回 児童虐待問題連絡会議実務者会議 12回 児童虐待問題連絡会議拡大実務者会議 6回 ネットワークで見守る全ケースの援助方針確認会議 3回 ・関係機関を対象とした児童虐待問題研修会 2回 ・市民を対象とした子育て支援研修会 1回 ・虐待対応業務専門研修 9回 ・枚方市児童虐待防止マニュアル改訂版を用いた関係機関向け研修内容の立案				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		児童虐待への理解と意識の浸透した結果として発生予防、早期発見、早期対応が行われている。				各種会議や啓発活動を通じて、関係機関等が児童虐待に対する理解と意識が浸透する。				児童虐待防止のための各種会議や啓発活動等を実施。			
指標設定	指標説明	虐待対応相談延件数				児童虐待防止のための各種会議や啓発活動等に参加した延べ人数。				児童虐待防止のための各種会議や啓発活動等を実施した回数。			
	単位		件		単位		人		単位		回		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)	27,000	27,000	27,000	27,000	1,000	1,000	1,000	1,000	35	35	35
実績		29,911	33,599	39,400	44,561	380	832	1,451	1,164	35	27	27	29
達成度		165%				116%				83%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	7.95
再任用	0.90
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	2.05
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	63,353	66,411	67,299		
	会計年度任用職員	11,686	14,012	13,967		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	75,039	80,423	81,266		
	物件費計	976	1,063	854	1,248	68.4%
歳出計		76,015	81,486	82,120		
歳入	国庫支出金	257	105	330	621	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	195	105	75	311	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	452	210	405	932	
一般財源（物件費に充当されるもの）		524	853	449	316	

5. 総括的分析

総括的分析	研修等開催し、啓発活動等を行った。会議を開催し、連携強化に努めた。虐待対応延べ件数は増加しており、児童虐待の早期発見、予防、早期対応について取り組むことができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	児童虐待防止のための各種会議や啓発活動等を実施し、発生予防、早期発見、早期対応に努める。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 360

事務事業名称	親子支援プログラム事業												
測定年度	2023 (R5) 年度			部	子ども未来部				課	まるっとこどもセンター			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5			
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち											
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち											
	実行計画名	15-1.子育て支援の充実											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2009 (H21) 年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	児童福祉法				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	子どもとの関係に悩み、不安とストレスを抱えている親			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	子どもとの関係に悩み、不安とストレスを抱えている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	子どもへの適切な関わり方について学んでもらうことにより、親子関係の改善につなげるとともに、虐待を予防することにもつながる。				
事業概要	親向けに、子育ての方法や感情コントロールのスキルを学ぶプログラムや、子どもを傷つけてしまう親の回復支援プログラム等の実施や情報提供を行う。 また、子ども向けに、子どもが自尊心をはぐくむために、感情コントロールや親との関係、友達との関係のとり方等のスキルを学ぶためのプログラムを実施する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
		支援プログラムを通じて、子育てや親子関係の対応について理解することで、児童虐待等の予防につながっている。				親子関係の改善につながる機会が増える。				子どもとの関係に悩み、不安とストレスを抱えている親等を対象とした支援プログラムを実施する。					
指標設定	指標説明		支援プログラム参加者の子育てや親子関係の対応に関する理解度 【算出式:理解したと回答した参加者数／全参加数×100】				親子支援プログラムへの参加者数				親子支援プログラム開催回数				
			単位	%			単位	人			単位	回			
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値			R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)		100	100	100	100	178	178	178	178	25	25	25	25
		実績		7	72	93	98	54	82	85	66	4	17	17	11
達成度		98%				37%				44%					

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.43
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.50
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	5,500	2,031	3,395		
	会計年度任用職員	2,307	1,412	2,550		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	7,807	3,443	5,945		
	物件費計	952	923	450	1,884	23.9%
歳出計		8,759	4,366	6,395		
歳入	国庫支出金	431	371	126	126	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	182	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	613	371	126	126	
一般財源（物件費に充当されるもの）		339	552	324	1,758	

5. 総括的分析

総括的分析	親支援プログラムにおいては、開催回数や人数、理解度等、概ね達成できた。一方で、子ども支援プログラムにおいては、令和4年度まで実施していたプログラム(オーストラリアのプログラム)のライセンス終了に伴い、令和5年度は新しいプログラムの導入とまるっとこどもセンター内での試験的なプログラム導入にとどまったため、目標の達成には至らなかった。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取り組み方針	親支援プログラムについては、親子関係形成プログラム事業の拡充のため、既存のプログラムに加えて、新たなプログラムの導入を検討している。既存のプログラムよりも参加しやすく、幅広い層へのアプローチを行う。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 366

事務事業名称	ひきこもり等子ども・若者相談支援事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名	15-3.ひきこもりや若年無業者、ひとり親家庭の自立に向けた支援									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2013(H25)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	子ども・若者育成支援推進法				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	主にひきこもり、ニート、不登校状態の子ども・若者			
	サブターゲット	主にひきこもり、ニート、不登校状態の子ども・若者の家族			
	ターゲットが抱える課題	様々な要因により一人ひとりにあった自分らしい自立につながっていない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	相談を通じて、子ども・若者一人ひとりが、自分らしく自立している状態。				
事業概要	平成25年4月に「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を設置し、おおむね15歳から39歳までのひきこもり、ニート、不登校等の子ども・若者やその家族等の相談に応じ、継続して対応方法や社会的自立に向けた支援を進めるとともに、ひきこもり等子ども・若者への具体的な支援を行うため、平成24年6月に設置した「枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」と連携し、適切な支援機関につなげるよう支援する。平成30年3月に改定した「枚方市子ども・若者計画～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～」に基づき、ニート・ひきこもり等の対策を推進するとともに、周知・啓発活動を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		相談を通じて、子ども・若者一人ひとりが、自分らしく自立している。				各相談に適切に応じるとともに、継続して対応方法や社会的自立に向けた支援を進める。				主にひきこもりやニート、不登校状態の子ども・若者に向けた相談を受け付ける。				
指標設定	指標説明	「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」で相談を受けている利用者が来所時より自立方向に変化した人の割合。 【算出式:利用者の内、来所時より自立方向に変化した人／利用者全数×100】				「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」で受け付けたのべ相談件数。				「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」で受け付けた新規相談件数。				
														単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	50	65	65	65	2,550	2,550	2,550	2,550	100	100	100	100
		実績	64.60	64.50	67.50	62.80	2,418	2,446	2,858	3,082	72	82	87	94
	達成度		97%				121%				94%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	1.19
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	1.60
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	14,928	10,468	9,395		
	会計年度任用職員	9,505	8,017	6,934		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	24,433	18,485	16,329		
歳入	物件費計	1,352	1,270	1,648	1,919	85.9%
	歳出計	25,785	19,755	17,977		
	国庫支出金	541	628	812	871	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	541	628	812	871	
一般財源（物件費に充当されるもの）		811	642	836	1,048	

5. 総括的分析

総括的分析	子ども・若者が自分らしい自立の方向に進むよう、継続的な相談支援を実施し、推進することができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	相談者のニーズに応じた支援を展開していく。 複雑化している相談にも適切に対応できるための施策を進める。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 372

事務事業名称	里親普及促進事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2	○	R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名		健やかな育ちを支える仕組みづくり								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	R2年度(2020年度)		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称	子ども・子育て支援交付金		サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	社会的養護(様々な理由により、生まれた家庭から離れて生活している)の子ども			
	サブターゲット	子育て支援に興味のある市民			
	ターゲットが抱える課題	生活の場が家から離れた地域になり、転校等が余儀なくされ、生活が一変する			
	ターゲットが抱える課題	里親制度に関する知識が希薄			
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	家族的養護が推進され家族と離れて暮らす子どもが、同じ地域の家庭で、環境をあまり変えることなく温かい愛情と理解をもって育てられる里親制度が広く認知されている状態。				
事業概要	さまざまな事情で家族と離れて暮らす子どもを受け入れる里親制度について、大阪府や里親支援機関と連携し理解促進に取り組むとともに、家庭的養護の推進を図る。 また、市が委託した協力家庭がショートステイの利用希望者の児童を預かることにより、子どもの預かりに対するハードルが下がることによる協力家庭から里親登録へのシフトを促すとともに、ショートステイサービスの利用を希望する保護者のニーズにも応える。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		社会的養護の必要な児童のうち、 家庭養護の割合が増加する。				里親制度に関する理解が進む。				里親制度を広く周知するとともに、 里親制度を知る機会を設ける。				
指標設定	指標説明	社会的養護の必要な児童のうち、 家庭養護の児童が占める割合。 【算出式:家庭養護(里親・ファミ リーホーム)の児童／社会的養護 の児童 ×100】				里親個別相談会での相談件数				里親支援機関と連携した里親個別 相談会の実施回数。				
		単位	%											単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	-	12	50	50	-	12	12	12	-	6	6	6
		実績	-	8	7	12	-	9	8	8	-	10	11	15
	達成度	24%				67%				250%				

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		社会的養護の必要な児童のうち、 家庭養護の割合が増加する。				協力家庭によるショートステイ事業 を利用する。				協力家庭によるショートステイ事業 を設ける。			
指標設定 ②	指標説明	社会的養護の必要な児童のうち、 家庭養護の児童が占める割合。 【算出式:家庭養護(里親・ファミ リーホーム)の児童／社会的養護 の児童 ×100】				協力家庭によるショートステイ事業 の利用日数。				協力家庭の数。			
		単位 %				単位 日				単位 件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	-	12	50	50	-	-	140	192	-	-	7	8
	実績	-	8	7	12	-	-	0	11	-	-	2	4
達成度		24%				6%				50%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.65
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額 (千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,907	3,507	5,132		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,907	3,507	5,132		
物件費計		9	68	340	1,328	25.6%
歳出計		2,916	3,575	5,472		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	1	92	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	1	92	
一般財源（物件費に充当されるもの）		9	68	339	1,236	

5. 総括的分析

総括的分析	家庭的養護の担い手となる里親を増やすため、里親制度が広く知れ渡ることを目的として、生涯学習市民センター等にてパネル展や個別相談会を行った。10月の里親月間ではシンポジウムを開催やヒラリオンのライトアップを行い、里親制度のPRに努めた。また、ショートステイ協力家庭事業を令和4年度に引き続き実施し、利用者及び協力家庭の増加に努めた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	大阪府や里親支援機関と連携した里親制度の普及啓発を行うとともに、ショートステイ協力家庭事業の協力家庭数の増加を目指し、周知に努める。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 373

事務事業名称	ひとり親家庭自立支援給付補助事業									
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	○	R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス		特性		選択的事業		区分		一般事務事業	
事業期間	2003 (H15) 年度			年度	～					年度まで
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法第31条、第31条の10、枚方市ひとり親家庭自立支援給付金の支給に関する規則									
関係補助金名称						サンセット				～
関係附属機関名称										
事業対象	メインターゲット	自立を目指すひとり親家庭の親								
	サブターゲット	ひとり親家庭の児童								
	ターゲットが抱える課題	相談者の多くは、頼れる親類が近くに居ない、仕事と子育て、家事などを一人で担わなければならないなど、さまざまな困難な状況にあり、就労や自身の健康、子育て・教育など、課題を整理しながら継続した支援が必要である。								
	ターゲットが抱える課題									
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	支援により資格等を取得できたことで、ひとり親家庭の親が安定した雇用やキャリアアップに結び付きやすい状態									
事業概要	子どもの育ち見守りセンターにひとり親相談窓口を設置し、母子・父子自立支援員が離婚前相談、福祉資金の貸付、母子生活支援施設の入所事務など、同じセンター内の家庭児童相談など関係機関と連携し、就業支援やホームヘルパーの派遣、枚方市ファミリーサポートセンター利用クーポン券の配布により、自立支援を行うとともに、地域の身近な相談者である母子父子福祉推進委員の協力により、ひとり親家庭の親子が孤立しないように、重層的な支援を目指す。また、母子家庭等の総合的な支援を目的とする「母子家庭等就業・自立支援センター事業」については、府や他の中核市とともに、ひとり親の当事者団体でもある社会福祉法人に委託している。									

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		支援を受けたひとり親家庭の親が安定した生活に向けて、資格等を取得できている。				給付金制度にかかる各種申請に対し、適切な手続の上、各種給付金の支給を実施する。				母子家庭の母及び父子家庭の父の自立に向けて、支援制度の案内や他機関へのつなぎを行う。				
指標設定	指標説明	申請者の内、講座受講修了者及び養育機関修了者の割合。 【算出式: (講座受講修了者＋養育機関修了者) ÷ 申請者 × 100】				支給決定者の内、各種給付金を支給した人の割合。 【算出式: 実際に支給した者 ÷ 支給決定者 × 100】				母子・父子自立支援員及び母子福祉推進委員による相談件数(総数)。				
		単位		%		単位		%						
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	24	923	932	941
		実績	100	100	100	100	100	100	100	100	28	1,053	1,092	922
	達成度	100%				100%				98%				

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル②		支援を受けたひとり親家庭の親が安定した生活に向けて、資格等を取得できている。				ファミリーサポートセンターの利用世帯数が増えることで、就職活動等に費やす時間ができる。				ひとり親家庭がファミリーサポートセンターを利用しやすい環境を作る。			
指標設定 ②	指標説明	申請者の内、講座受講修了者及び養育機関修了者の割合。 【算出式:(講座受講修了者＋養育機関修了者)÷申請者×100】				ファミリーサポートセンターのクーポン券活用による延べ利用時間数				ファミリーサポートセンターの利用クーポン券配付世帯数			
		単位 %				単位 時間				単位 世帯			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	－	150	150	150	－	30	30	30
	実績	100	100	100	100	－	230	157	154	－	25	33	46
	達成度	100%				103%				153%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.08
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.31
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額 (千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,571	312	632		
	会計年度任用職員	896	902	1,417		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,467	1,214	2,049		
物件費計		33,563	26,686	31,522	36,405	86.6%
歳出計		36,030	27,900	33,571		
歳入	国庫支出金	33,359	26,714	27,003	27,003	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	33,359	26,714	27,003	27,003	
一般財源（物件費に充当されるもの）		204	0	4,519	9,402	

5. 総括的分析

総括的分析	申請者数は増加傾向にある。申請に至るまでの相談、問い合わせも増加傾向にある。効率的な事務執行が求められる。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	国の制度に基づき、引き続き事業を進めていく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 374

事務事業名称	ひとり親家庭等就業・自立支援事業									
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3	○	R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名	15-3.ひきこもりや若年無業者、ひとり親家庭の自立に向けた支援								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2014 (H26) 年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法、枚方市母子福祉推進委員に関する要綱				
関係補助金名称	母子家庭等対策総合支援事業費補助金		サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	ひとり親家庭やひとり親家庭になるかもしれない親			
	サブターゲット	ひとり親家庭等の児童			
	ターゲットが抱える課題	相談者の多くは、頼れる親類が近くに居ない、仕事と子育て、家事などを一人で担わなければならないなど、さまざまな困難な状況にあり、就労や自身の健康、子育て・教育など、課題を整理しながら継続した支援が必要である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	さまざまな困難な状況の段階的解決を目指し、適切な支援機関への接続を図るとともに、経済的自立を目指し、専門的資格を取得することで、安定した収入を得ることで、安心して子育てが出来る。				
事業概要	ひとり親家庭相談支援センターにおいて、母子・父子自立支援員がひとり親が安心して生活や仕事ができるようさまざまな相談に応じているほか、離婚前相談も行っている。その際には、同じセンター内の家庭児童相談や人権政策室、福祉事務所、ハローワークなど関係機関と連携するとともに、ひとり親家庭の親子が孤立しないよう、地域で身近に相談できるよう、母子父子福祉推進委員の協力により、重層的な支援を目指している。 また、多岐にわたる支援制度や相談窓口の情報をよりわかりやすく市民に案内するためにひとり親家庭支援手続きガイドシステムを構築・運用するとともに、利用者のニーズに沿った相談窓口の整備として、対面、電話に加えて、LINEを活用した相談窓口を新設する。 なお、母子家庭等の総合的な支援を目的とする「母子家庭等就業・自立支援センター事業」については、府や他の中核市とともに、ひとり親の当事者団体でもある社会福祉法人に委託している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		相談や講習会を通じて、技能の取得や就職が実現した結果、安定した収入と生活を得ることが出来ている。				自立が難しいひとり親家庭の親等について、相談や講習会に参加できる機会が増える。				就業相談や就業支援講習会を実施する母子家庭等就業・自立支援センター事業を実施。			
指標設定	指標説明	相談や講習会を通じて、技能の取得や就職が実現した人の数。				母子家庭等就業・自立支援センター事業におけるのべ相談件数。				母子家庭等就業・自立支援センター事業における実施事業数			
	単位		人		単位		件		単位		件		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)	10	35	38	41	10	10	10	10	4	4	4
実績		10	5	6	9	16	19	31	14	4	4	4	4
達成度		22%				140%				100%			

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		相談や講習会を通じて、技能の取得や就職が実現した結果、安定した収入と生活を得ることが出来ている。				自立が難しいひとり親家庭の親等について、各種相談を受けられる機会が増える。				母子・父子自立支援員によるひとり親家庭及び寡婦の相談や、母子父子福祉推進委員による相談を受け付ける。				
指標設定②	指標説明	相談や講習会を通じて、技能の取得や就職が実現した人の数。				母子・父子自立支援員及び母子福祉推進委員による就労に関するのべ相談件数。				相談窓口としての母子・父子自立支援員を配置している子どもの育ち見守りセンターと、母子父子福祉推進委員を設置している小学校区の合計数。				
	単位	人	単位	件	単位	箇所								
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	10	35	38	41	90	90	90	90	46	46	46	46
		実績	10	5	6	9	116	135	74	60	46	46	46	46
達成度	22%				67%				100%					

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.09
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.31
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,179	312	711		
	会計年度任用職員	896	902	1,417		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,075	1,214	2,128		
	物件費計	6,852	2,362	3,070	3,163	97.1%
歳出計		8,927	3,576	5,198		
歳入	国庫支出金	5,728	951	1,945	1,000	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		5,728	951	1,945	1,000	
一般財源（物件費に充当されるもの）		1,124	1,411	1,125	2,163	

5. 総括的分析

総括的分析	相談件数は一定数を保っている。その中で、技能の取得や就職が実現した人の数は徐々に上昇しており、適切な情報提供や研修、相談指導が行われていると考えられる。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き広報誌やホームページ、SNSによる相談窓口や事業に関する周知を図りつつ、事業に取り組んでいく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 375

事務事業名称	助産施設入所措置等事務									
測定年度	2023(R5)年度		部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	不明		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法第22条、児童福祉法の規定に基づく助産の実施に関する要綱				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	経済的理由により出産費用を用意することが困難な妊婦及びその家庭。			
	サブターゲット	ー			
	ターゲットが抱える課題	経済的理由により出産費用の用意が困難。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	制度の利用により出産費用が用意できる。				
事業概要	生活が困窮している妊産婦からの相談に応じ、助産施設への入所決定を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
			各申請に対して、適切に入所措置を行う。				生活が困窮している妊産婦から助産施設への入所申請を受け付ける。			
指標設定	指標説明		入所申請した人の内、入所措置した人の割合。 【算出式:入所措置数／入所申請数×100】				入所決定した人数			
			単位				単位			
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)		100	100	100	100	56	56	56	56
	実績		100	100	100	100	35	34	27	33
達成度			100%				59%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.09
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,179	312	711		
	会計年度任用職員	861	601	914		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,040	913	1,625		
歳入	物件費計	16,407	9,818	12,114	17,626	68.7%
	歳出計	18,447	10,731	13,739		
	国庫支出金	6,025	3,863	5,598	6,620	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	1,858	1,425	1,596	1,350	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	7,883	5,288	7,194	7,970	
一般財源（物件費に充当されるもの）		8,524	4,530	4,920	9,656	

5. 総括的分析

総括的分析	庁内の関係部署との連携等を通して制度利用を必要とする世帯を措置することができた
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	国の制度に基づき、事業を継続していく

事務事業実績測定調書

R5調書番号 376

事務事業名称	母子家庭厚生補助事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	不明		年度	～	年度まで
根拠法令等	枚方市補助金等交付規則				
関係補助金名称	母子家庭等厚生事業補助金		サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	市内在住の母子家庭等で構成される当事者団体の活動に参加する母子家庭等の親			
	サブターゲット	市内在住の母子家庭等で構成される当事者団体の活動に参加する母子家庭等の子			
	ターゲットが抱える課題	地域において住民同士の連帯感が希薄になる中で、ひとり親家庭等が悩みを抱えたまま孤立しがちになっている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	ひとり親家庭等が情報交換又は交流を行うことで、教養や福祉の増進が図れている。				
事業概要	市内在住の母子家庭等で構成される当事者団体が、情報交換や体験発表、交流を目的とする事業について、事業費の一部を補助する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		補助金を交付した事業を通じて、母子家庭等の教養や福祉の増進が図れている。				補助金の交付により、対象事業が円滑に実施されることで、母子家庭等が情報交換等を行う機会が増える。				市内在住の母子家庭等で構成される当事者団体が企画する、情報交換等を目的とする事業について、補助金を交付する。			
指標設定	指標説明	補助対象事業への参加者に対し、アンケート調査を実施する。その内、満足と回答した人の割合。 【算出式: 満足と回答した人数／参加者人数×100】				補助金交付団体からの実績報告書で確認できた補助対象事業に参加した人数。				補助金交付決定を行った団体が対象事業を行った回数。			
	単位		%		単位		人		単位		回		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)	70	70	70	70	90	90	90	90	4	4	4
実績		0	0	0	0	0	54	73	80	0	3	5	6
達成度		0%				89%				150%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.04
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	786	312	316		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	786	312	316		
	物件費計	300	224	300	300	100.0%
歳出計		1,086	536	616		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
一般財源（物件費に充当されるもの）		300	224	300	300	

5. 総括的分析

総括的分析	コロナによる影響から改善が見られ、活動が戻ってきている。
-------	------------------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	ひとり親家庭等の教養や福祉の増進の観点等を見据え、今後も事業に取り組む。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 377

事務事業名称	ひとり親家庭等日常生活支援事業											
測定年度	2023 (R5) 年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5		
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名	15-3.ひきこもりや若年無業者、ひとり親家庭の自立に向けた支援										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2014(H26)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法第17条、第33条、枚方市母子家庭等日常生活支援事業実施要綱				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	日常生活を営むのに一時的に支障が生じているひとり親家庭等の親			
	サブターゲット	日常生活を営むのに一時的に支障が生じているひとり親家庭等の子			
	ターゲットが抱える課題	多忙なひとり親家庭では、子どもの養育、家事等生活面に多くの困難を抱え、日常生活を営むのに一時的に支障が生じている場合がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	家庭生活支援員の派遣により安定した生活が営めている。				
事業概要	ひとり親家庭等が日常生活を営むのに一時的に支障が生じている場合に家庭生活支援員を派遣する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
		家庭生活支援員の派遣により安定した生活が営めている。				日常生活を営むのに一時的に支障が生じているひとり親家庭等に対し、家庭生活支援員の派遣を実施する。				日常生活支援事業制度の周知により、日常生活を営むのに一時的に支障が生じている当制度を必要とするひとり親家庭の申請件数が増加する。					
指標設定	指標説明		家庭生活支援員利用対象世帯に対し、アンケート調査を実施する。その内、満足と回答した人の割合。 【算出式: 満足と回答した世帯数／利用世帯数×100】				家庭生活支援員派遣回数				登録世帯数				
			単位		%		単位		回		単位		世帯		
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2		R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)		70	70	70	70	135	150	165	180	14	15	16	17
		実績		0	0	0	0	144	167	302	460	14	38	44	46
達成度		0%				256%				271%					

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.09
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.30
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,179	312	711		
	会計年度任用職員	896	902	1,372		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,075	1,214	2,083		
歳入	物件費計	1,884	2,985	4,013	2,058	195.0%
	歳出計	3,959	4,199	6,096		
	国庫支出金	984	1,029	1,028	1,029	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	15	15	134	9	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	999	1,044	1,162	1,038	
一般財源（物件費に充当されるもの）		885	1,941	2,851	1,020	

5. 総括的分析

総括的分析	利用回数や利用時間に上限は設けているものの、理由によってはそれ以外の場合もあるとしている。子どもの置き去り防止などの観点から特に夜間の利用が増えており、全体としても大幅に利用回数が増加。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	国の制度に基づき、事業を維持していく。 また虐待案件等については、今後も適切な制度利用当対応を検討していく。

事務事業実績測定調査

R5調書番号 378

事務事業名称	母子生活支援施設入所措置等事務									
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち							
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち							
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	不明		年度	～	年度まで
根拠法令等	児童福祉法第23条				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	18歳未満の子どもを養育している母子家庭の母親、または何らかの事情で離婚の届出ができていないなどの母子家庭に準ずる家庭の母親。			
	サブターゲット	18歳未満の子どもを養育している母子家庭の子、または何らかの事情で離婚の届出ができていないなどの母子家庭に準ずる家庭の子。			
	ターゲットが抱える課題	配偶者等からの暴力などにより子の養育が困難となっており、安全で安定した生活が送れていない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	母子生活支援施設への入所により、自立に向け安全で安定した生活を送ることができる。				
事業概要	母子生活支援施設は18歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届けができないなど、母子家庭に準ずる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設で、母子が安全で安定した生活を送れるよう、同施設と連携し、相談や援助を進めながら自立を支援する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
						母子生活支援施設への入所申請により、自立に向け安全で安定した生活を送ることができる。				母子生活支援施設への入所を希望または必要とする母子家庭に対し、相談を受ける。			
指標設定	指標説明					母子生活支援施設への入所希望者が入所できた割合 【算出式: 実際に入所した人数 / 入所希望人数 × 100】				入所を希望入所を希望または必要とする母子家庭に対し行った相談件数。			
						単位 %				単位 件			
	指標種類					増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値					R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)					1	100	100	100	100	22	23	24
	実績					0	100	100	100	100	25	74	91
達成度						100%				379%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.09
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.30
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,179	312	711		
	会計年度任用職員	861	902	1,372		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,040	1,214	2,083		
歳入	物件費計	21,519	25,649	25,975	32,901	78.9%
	歳出計	23,559	26,863	28,058		
	国庫支出金	10,865	11,590	12,960	15,328	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	10,865	11,590	12,960	15,328	
一般財源（物件費に充当されるもの）		10,654	14,059	13,015	17,573	

5. 総括的分析

総括的分析	庁内の関係部署とも連携し、措置を必要とする母子について適切に入所支援を行うことができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き庁内関係部署とも連携しながら、措置を必要とする母子について適切に入所支援を行う。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 379

事務事業名称	母子父子寡婦福祉資金貸付事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2014 (H26) 年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法施行令、母子及び父子並びに寡婦福祉法施行規則、枚方市母子福祉資金、父子福祉資金及び寡婦福祉資金貸付規則				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	生活の安定と向上を目指すひとり親家庭等の親			
	サブターゲット	生活の安定と向上を目指すひとり親家庭等の子			
	ターゲットが抱える課題	子どもの修学などにかかる経済的負担が大きく、教育の機会均等が図れていない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	子どもの修学などにかかる経済的負担が軽減され、教育の機会均等が図れている。				
事業概要	ひとり親家庭等に対し、その生活の安定と向上のための用途（子どもの修学や就学支度、母親・父親自身の技能習得など）の資金について審査し、適正に貸付を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)									
		子どもの修学などにかかる経済的負担が軽減され、教育の機会均等が図れている。				母子父子寡婦福祉資金貸付申請を適切に受理する。				母子父子寡婦福祉資金貸付に関する相談を受ける。									
指標設定	指標説明		貸付金の支給を行った人の内、修学している人の割合。 【算出式:修学している人数／貸付金支給者数×100】				新規貸付決定人数				母子父子寡婦福祉資金新規貸付相談件数								
	単位		%		単位		人		単位		件								
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標								
	指標数値	R2		R3		R4		R5		R2		R3		R4		R5			
		目標 (見込み)		100		100		100		100		10		10		10		10	
		実績		100		100		100		100		7		10		9		11	
達成度		100%				110%				79%									

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.10
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.30
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,964	312	790		
	会計年度任用職員	1,653	1,203	1,372		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	3,617	1,515	2,162		
歳入	物件費計	20,240	16,757	60,742	113,932	53.3%
	歳出計	23,857	18,272	62,904		
	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	39,764	34,760	78,563	86,034	
歳入	歳入計（物件費に充当される特定財源）	39,764	34,760	78,563	86,034	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	一般財源（物件費に充当されるもの）	0	0	0	27,898	

5. 総括的分析

総括的分析	国の新制度や日本学生支援機構の給付金制度が充実していきつつあり、貸付の件数は横ばいの状況である。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	国の制度に基づき、事業を継続していく

事務事業実績測定調書

R5調書番号 380

事務事業名称	母子父子寡婦福祉資金特別会計繰出金事務									
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間	2014(H26)年	年度	～		年度まで
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法施行令、母子及び父子並びに寡婦福祉法施行規則、枚方市母子福祉資金、父子福祉資金及び寡婦福祉資金貸付規則				
関係補助金名称			サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	生活の安定と向上を目指すひとり親家庭等の親			
	サブターゲット	生活の安定と向上を目指すひとり親家庭等の子			
	ターゲットが抱える課題	子どもの修学などにかかる経済的負担が大きく、教育の機会均等が図れていない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	一般会計からの繰出金が母子父子寡婦福祉資金特別会計へ適切に支出されている。				
事業概要	母子父子寡婦福祉資金特別会計に一般会計から繰出金を支出する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標設定	指標説明												
	指標種類												
	指標数値	目標 (見込み)											
		実績											
	達成度												

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.90
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,964	4,522	7,106		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	1,964	4,522	7,106		
	物件費計	20,240	20,112	0	0	
歳出計		22,204	24,634	7,106		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
一般財源（物件費に充当されるもの）		20,240	20,112	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	一般会計から母子父子寡婦福祉資金特別会計へ操出金を適切に支出した。
-------	-----------------------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、母子父子寡婦福祉資金特別会計への操出金を適切に支出する

事務事業実績測定調書

R5調書番号 381

事務事業名称	ひとり親家庭養育費・面会交流相談支援事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	○	R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名	健やかな育ちを支える仕組みづくり									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)		年度	～	年度まで
根拠法令等	民法(扶養義務)第766条1項、母子及び父子並びに寡婦福祉法第5条1項から3項				
関係補助金名称	母子家庭等対策総合支援事業国庫補助金		サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	離婚したひとり親家庭の養育費を受け取れていない保護者			
	サブターゲット	離婚したひとり親家庭の養育費を受け取れていない子ども(18歳)			
	ターゲットが抱える課題	親が離婚し養育費を受け取れていない家庭は、衣食住に必要な経費や教育費、医療費などを、養育している保護者が負担している。			
	ターゲットが抱える課題	別居親から支援がないことで経済的・心理的な不安を抱えている。			
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	両親が離婚していても、同居親・別居親ともに双方から経済的に子が養育されている状態。				
事業概要	離婚した家庭では、養育費を実際に受けとっていない世帯数は母子家庭66.8%、父子家庭86.0%、また、面会交流について取り決めをしていない世帯数は母子家庭57.1%、父子家庭71.9%(ともに枚方市調査)となっており、養育費の受け取り・面会交流ともに実施されていない率が高い状況にある。 養育費・面会交流は、子どもにとって両親から大切にされていると実感でき、安心感と自尊心を持つことにつながり、健やかな成長に影響を与えられるものである。 そこで、養育費や面会交流の取り決めに対するサポートや、取り決めが行われたにもかかわらず養育費が支払われない場合に、つぎの事業を行い、ひとり親家庭の子どもの健やかな成長に資する。 ①取り決め支援＝弁護士による養育費や面会交流の取り決めについての相談、公正証書の作成や調停手続きの補助(公証役場での手数料や家庭裁判所での収入印紙代等の費用補助) ②受け取り支援＝養育費の取り決め(公正証書の作成・調停)を行っているにも関わらず、別居親から養育費が支払われない対応として、ひとり親家庭が保証会社と保証契約を結び、保証会社から養育費の不払分の立替を受け取る場合に、ひとり親世帯が支払う保証料を補助する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		養育費受給者が増加する				養育費サポート事業における【取り 決め支援】と【受け取り支援】の申 請人数が増える				養育費取り決めに関する相談体制 の確保				
指標設定	指標説明	養育費サポート事業【取り決め支 援】の利用者で、養育費を継続し て受け取っている人の割合 【算出式: 取り決め支援の申請者 数-過去に取り決め支援を利用し たが受け取り支援を申請するに 至った人／取り決め支援の申請者 数×100】				養育費サポート事業【取り決め支 援】申請人数+養育費サポート事 業【受け取り支援】申請人数				養育費サポート事業【取り決め支 援】弁護士による相談回数				
														単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	-	100	100	100	-	15	15	15	-	48	48	48
		実績	-	100	100	100	-	7	23	22	-	40	39	46
達成度		100%				147%				96%				

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		養育費受給者が増加する				養育費サポート事業【受け取り支援】の申請人数が増える				養育費を取り決めたにも関わらず未受給の方へのサポート体制の確保				
指標設定②	指標説明	養育費サポート事業【取り決め支援】の利用者で、養育費を継続して受け取っている人の割合 【算出式:取り決め支援の申請者数-過去に取り決め支援を利用したが受け取り支援を申請するに至った人／取り決め支援の申請者数×100】				受け取り支援による申請人数				受け取り支援による相談回数				
	単位		%		単位		人		単位		回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	-	100	100	100			3	3			48	48
		実績	-	100	100	100			0	0			0	0
達成度		100%				0%				0%				

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.09
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費	2,357	312	711		
	正職員、再任用、任期付					
	会計年度任用職員	1,317	602	914		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	3,674	914	1,625		
歳入	物件費計	813	904	881	1,475	59.7%
	歳出計	4,487	1,818	2,506		
	国庫支出金	267	510	710	799	
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料、手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	267	510	710	799	
一般財源(物件費に充当されるもの)		546	394	171	676	

5. 総括的分析

総括的分析	弁護士への相談ニーズは高まっている。 公正証書作成に係る補助に関して公正役場から制度を案内していただいております、申請件数は一定数を保っている。 受け取り支援については契約時の支援はできるものの、その後継続的に利用料の支払う必要があるためか、実際申請に至る方は0人という結果になっている。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、相談時での丁寧な対応・支援と、的確な周知啓発などにより事業を進めていく。

事務事業実績測定調査

R5調書番号 382

事務事業名称	子ども見守りシステム構築事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2	○	R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名		健やかな育ちを支える仕組みづくり								

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	内部事務	区分	一般内部管理事務
事業期間	R3年度(2021年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	18歳までの子ども			
	サブターゲット	18歳までの子どもを持つ保護者とその家庭			
	ターゲットが抱える課題	虐待、いじめ、引きこもり、不登校、貧困等			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	子どもの抱える課題をより早期に解決し、また重篤化することを防ぐには、高い専門性を持った職員によるアセスメントが必要であるが、それには、様々な情報が必要である。ICT化により、各所管課で個別に管理している子どもの情報を集約・活用し、情報収集や情報共有を行うことで、職員のリソースを、アセスメントや支援活動に、最大限発揮でき、速やかに関係部署と連携した適切な支援へと繋げていくことができ、子どもの課題に対する早期解決、重篤化の防止へとつなげることができる。				
事業概要	個々の子ども自身の情報や、その保護者を含めた周囲の状況など、各部署がそれぞれ業務システム等で管理している子どもに関する情報を集約し活用するため、子ども見守りシステムを構築する。 それにより、課題に対する早期対応が可能となるほか、これまで把握できなかった課題に対する、予防的支援につなげていく。 令和2年度:システム仕様の確定 令和3年度:システム構築、運用上の情報共有範囲の精査、試験稼働 令和4年度:システム運用開始				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
						速やかに関係部署と連携した適切な支援へと繋げていくことができ、子どもの課題に対する早期解決、重篤化の防止へとつなげることができるシステムを構築する。				連携すべき情報項目を精査し、関係各課が所管する業務システムとの連携についての協議を行う。					
指標設定	指標説明					子ども見守りシステムの構築完了率 【算出式:連携済みシステム数／連携予定システム数×100】				子ども見守りシステムへ連携する業務システムの数					
					単位	%		単位	システム						
	指標種類						増加することが良いとされる指標								
	指標数値							R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)						—	100	—	—	—	11	—	—
実績						—	100	—	—	—	11	—	—		
達成度						—									

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.45
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	7,228	1,953	3,553		
	会計年度任用職員	482	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	7,710	1,953	3,553		
歳入	物件費計	15,828	7,267	12,200	12,201	100.0%
	歳出計	23,538	9,220	15,753		
	国庫支出金	0	0	0	0	
歳入	府支出金	0	0	2,657	2,657	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	2,657	2,657	
一般財源（物件費に充当されるもの）		15,828	7,267	9,543	9,544	

5. 総括的分析

総括的分析	各部署がそれぞれの業務システム等で管理している子どもに関する情報をシステム上で即時確認できるよう常時適切な運用管理業務を行ったことにより、導入前と比較してより適切かつ速やかなアセスメントに寄与している。新規事業であるサポートプランを作成できるよう改修を行った。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、システムの稼働監視やトラブル対応といった適切な運用管理業務を行うとともに、子どもの課題に対する早期解決、重篤化の防止へとつなげるため、システムのさらなる活用を検討する。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 383

事務事業名称	福祉・教育ソーシャルワーク事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2	○	R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名		健やかな育ちを支える仕組みづくり								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	生徒指導上の課題解決を要する児童・生徒			
	サブターゲット	教職員			
	ターゲットが抱える課題	児童・生徒の様々な課題の背景・原因には、家庭環境・生育環境・学校生活環境をはじめとする子どもを取り巻く環境が影響している。			
	ターゲットが抱える課題	課題の解決・改善のためには課題を表面的に見るのではなく、福祉や子どもの心理・発達等の視点を入れて子どもと家族について必要な手立てを具体的に考えないと課題解決が進まない。			
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	小中学校における児童生徒の不登校や問題行動等の課題解決に向けた支援体制が構築され、児童・生徒が安心して安全に学校生活・家庭生活を送ることができる状態				
事業概要	いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行うソーシャルワーカーを子どもの育ち見守りセンターに配置し、教育委員会や学校等と連携した相談体制を構築するとともに、生徒指導上の課題がある児童・生徒等への支援を行う。併せて多様な課題への迅速な対応を可能にしていくためにスクールソーシャルワーカーや学校教職員への助言・指導を行うスクールソーシャルワーカースーパーバイザーを設置する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		生徒指導上の課題が解決し、児童・生徒が安心して安全に学校生活・家庭生活を送ることができている。				校内チーム体制が構築され、組織としての問題解決が図られる。				スクールソーシャルワーカーを配置・派遣する。				
指標設定	指標説明		見守りが必要な児童・生徒数				スクールソーシャルワーカーが参加した学校でのケース会議数				スクールソーシャルワーカー活動時間数(人数×勤務時間数)			
			単位		人		単位		回		単位		時間	
	指標種類		減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)		-	0	0	0	-	64	64	64	-	7,254	7,254	7,254
	実績		-	884	871	479	-	114	271	322	-	7,417	7,742	10,346
達成度		0%				503%				143%				

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		生徒指導上の課題が解決し、児童・生徒が安心して安全に学校生活・家庭生活を送ることができている。				スクールソーシャルワーカーの活用により、ケースに応じて適切な関係機関へ繋げるなど、課題を解決する機会が増える。				スクールソーシャルワーカーを配置・派遣する。			
指標設定②	指標説明	見守りが必要な児童・生徒数				スクールソーシャルワーカーが支援した児童・生徒数（実人数）				スクールソーシャルワーカー活動時間数（人数×勤務時間数）			
	指標種類	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標（見込み）	-	0	0	0	-	350	350	350	-	7,254	7,254	7,254
	実績	-	884	871	479	-	411	582	479	-	7,417	7,742	10,346
達成度		0%				137%				143%			
ロジックモデル③		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		生徒指導上の課題が解決し、児童・生徒が安心して安全に学校生活・家庭生活を送ることができている。				スクールソーシャルワーカーがスーパーバイザーから助言される機会を確保でき、スクールソーシャルワーカーの能力向上につながる。				スクールソーシャルワーカースーパーバイザーを配置する。			
指標設定③	指標説明	見守りが必要な児童・生徒数				スーパーバイザーがスクールソーシャルワーカーに対して助言や研修を実施した回数				スクールソーシャルワーカースーパーバイザー活動時間数			
	指標種類	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標（見込み）	-	0	0	0	-	30	30	30	-	144	144	144
	実績	-	884	871	479	-	29	28	36	-	144	144	183
達成度		0%				120%				127%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	1.00
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	5.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	13,357	7,812	7,895		
	会計年度任用職員	22,311	24,379	31,131		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	35,668	32,191	39,026		
	物件費計	1,522	900	1,565	2,850	54.9%
歳出計		37,190	33,091	40,591		
歳入	国庫支出金	869	6,643	8,885	17,452	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	869	6,643	8,885	17,452	
一般財源（物件費に充当されるもの）		653	0	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	スクールソーシャルワーカー7名が配置された拠点校における相談支援や、拠点校以外の市内全小中学校への巡回と要請による派遣活動、また、教職員とともにケースへの対応や必要に応じ関係機関等との連携のコーディネート、スーパーバイザーによる研修等への取り組みにおいて、おおむね目標どおりの活動ができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	見守りの必要な児童・生徒へのきめ細かな対応に向けて、スクールソーシャルワーカーの増員配置を進め、本事業の更なる充実に向けて取り組んでいく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 389

事務事業名称	子どものSNS相談事業										
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち									
	実行計画名	健やかな育ちを支える仕組みづくり									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	R4年度(2022年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等					
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	学校や家庭において悩みやしんどさを抱えている児童・生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	悩みやしんどさに関する相談ができる機会が少ない			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	抱えている悩みやしんどさに対する助言や適切な支援等の案内を得ることにより、学校や家庭において安心して生活を送ることができる状態。				
事業概要	学校や家庭において困った時や悩んだときに身近に相談できる相手がいない、または、対面や電話では相談しにくい事情にある児童・生徒に対して、タブレット等を活用し、子どもに身近なツールであるSNSを利用した相談窓口を設ける。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		相談者が抱える生きづらさや悩みが解消され、学校や家庭において安心して生活を送ることができる				相談を通じて、相談者が抱える生きづらさや悩みが解決するよう適切に対応する。				学校や家庭において生きづらさや悩みを抱えている児童・生徒に対して、SNSを利用した相談を受け付ける。				
指標設定	指標説明	SNSを利用した相談窓口利用者の満足度。				SNSを利用した相談窓口の相談件数。				SNSを利用した相談窓口の開設日数。				
	単位		%		単位		件		単位		日			
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	-	-	100	100	-	-	645	1935	-	-	180	365
	実績	-	-	67	62	-	-	435	4,892	-	-	123	315	
達成度		62%				253%				86%				

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	0.77
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	2.85
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考) R5予算額	(参考) 予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	-	937	6,079		
	会計年度任用職員	-	0	13,666		
	特別職非常勤	-	0	0		
	附属機関委員	-	0	0		
	人件費計	-	937	19,745		
歳入	物件費計	-	0	4,429	6,125	72.3%
	歳出計	-	937	24,174		
	国庫支出金	-	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
歳入	府支出金	-	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	受益者負担（使用料、手数料）	-	0	0	0	
	市債	-	0	0	0	
	その他	-	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	-	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）		-	0	4,429	6,125	

5. 総括的分析

総括的分析	市立小中学校の児童・生徒に対するGIGAスクール端末を利用したSNS相談を本格実施。家庭や学校においてしんどさを抱えている児童・生徒への相談支援が行えた。相談件数に対応できる人員体制を整えること、子どもへの適切な支援ができる相談員のスキルアップに努めた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取り組み方針	市立小中学校の児童・生徒に対するGIGAスクール端末を利用した相談に加え、専用のアプリを配信し、市内在住・在学・在勤の18歳までの子どもを対象に拡充し、安心して悩みを相談できる機会を増やす。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 728

事務事業名称	妊産婦健康診査事業										
測定年度	2023 (R5) 年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		14.安心して妊娠・出産できる環境が整うまち								
	実行計画名		14-1.母子の健康づくりの推進								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択の事業	区分	一般事務事業
事業期間	1997 (H9) 年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	母子保健法				
関係補助金名称	妊婦健康診査補助金 産婦健康診査補助金		サンセット	2023 (R5) 年度	～ 2025 (R7) 年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	全ての妊産婦			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	妊産婦の健康診査は自費診療であるため、経済的負担がある。予期せぬ妊娠等により経済的にゆとりがない場合、受診が遅れたり受診回数を減らざるを得なくなる恐れがある。中でも多胎妊娠は、母体への負担と出産前後の合併症のリスクが高く、多胎児は単胎児に比べて低出生体重児や障害児となるリスクが高い。そのため、妊娠管理が重要であることから妊婦健康診査の回数が多くなる。さらに、準備する育児物品が多く、長期入院等で予定外の出費が発生することもあり、単胎よりも経済的負担がある。			
	ターゲットが抱える課題	産後の母体や生活の変化により、心身に不調をきたす恐れがある。			
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	妊娠中から母体管理を行うことで安全な出産を迎え、産後は産婦が必要とする支援が受けられる。				
事業概要	妊娠届出時に母子健康手帳などと併せて、妊婦健康診査受診券14枚、産婦健康診査受診券2枚、妊産婦歯科健康診査受付票1枚を交付。 妊婦健康診査は平成25年度から助成額を増額した(1回目24,780円、4回目9,820円、8回目17,340円、10回目8,140円、12回目11,400円、他5,040円。合計116,840円)。健診内容は、国基準に準ずる。 産婦健康診査は、平成29年10月より開始している(1回あたり上限5,000円。合計10,000円)。国の母子保健医療対策総合支援事業(母子保健衛生費国庫補助金)として実施し、健診内容は国の要綱に基づく。母体の健康管理のみならず、産後の初期段階における母子に対する支援を強化し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の整備を図る。 妊婦健康診査及び産婦健康診査は、大阪府及び京都府内の医療機関、助産所において健康診査受診時に受診券の金額分を助成する。また委託医療機関以外での受診分については償還する。 妊産婦歯科健康診査は、妊娠中から産後1年未満の間に枚方市委託歯科医療機関で無料実施。 多胎妊娠している妊婦に、妊婦健康診査受診券を追加で5枚(49,100円分)配付する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム （活動効果）				アウトプット （活動結果）				インプット （活動）			
		安全な出産を迎え、産後は産婦が必要とする支援が受けられる。				妊産婦が経済的不安を感じることなく受診できる。				妊娠届出時に母子健康手帳などと併せて、妊婦健康診査受診券を配付する。			
指標設定	指標説明	「産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができた」と感じる人の割合				妊婦健康診査受診件数				母子健康手帳別冊（産婦健康診査受診券等の綴り）配付件数			
	単位		%		単位		件		単位		件		
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標（見込み）	91	93	95	97	31,500	30,600	29,900	29,400	2,849	2,773	2,715
実績		88	88.80	89.78	92.30	30,231	30,704	29,828	28,638	2,734	2,799	2,625	2,599
達成度		95%				97%				97%			

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		安全な出産を迎え、産後は産婦が必要とする支援が受けられる。				対象者が産婦健康診査を受ける。				産婦健康診査の実施により医療機関等との連携を深め、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を整備する。				
指標設定②	指標説明	「産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができた」と感じる人の割合				産婦健康診査受診件数				母子健康手帳別冊(産婦健康診査受診券等の綴り)配付件数				
		単位		%										単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標(見込み)	91	93	95	97	5,109	4,825	4,665	4,509	2,849	2,773	2,715	2,676
指標設定③	指標数値	実績	88	88.80	89.78	92.30	3,947	4,311	4,037	4,047	2,734	2,799	2,625	2,599
		達成度	95%				90%				97%			
ロジックモデル③		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		安全な出産を迎え、産後は産婦が必要とする支援が受けられる。				対象者が妊産婦歯科健康診査を受ける。				妊娠届出時に母子健康手帳などと併せて、妊産婦歯科健康診査受付票を配付する。				
指標設定③	指標説明	「産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができた」と感じる人の割合				妊産婦歯科健康診査受診件数				母子健康手帳別冊(妊産婦歯科健康診査受付票等の綴り)配付件数				
		単位		%										単位
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標(見込み)	91	93	95	97	-	832	869	937	-	2,773	2,715	2,676
指標設定③	指標数値	実績	88	88.80	89.78	92.30	-	840	804	776	-	2,799	2,625	2,599
		達成度	95%				83%				97%			

3. 人員体制
(人)

	R5実績
正職員	1.18
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	13,556	15,624	9,316		
	物件費	287,825	278,756	270,483	300,940	89.9%
	歳出計	301,381	294,380	279,799		
	歳入計	11,394	10,995	11,260	11,688	
	一般財源	276,431	267,761	259,223	289,252	
	歳入	11,262	10,863	11,110	11,556	
歳入	国庫支出金	11,262	10,863	11,110	11,556	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料、手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	132	132	150	132	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	11,394	10,995	11,260	11,688	
一般財源(物件費に充当されるもの)		276,431	267,761	259,223	289,252	

5. 総括的分析

総括的分析	妊婦健康診査、産婦健康診査、妊産婦歯科健康診査の受診については、おおむね目標値を達成している。妊娠期からの重層的な支援により、産後の支援の満足度は令和2年度より年々高くなっており、目標はおおむね達成できている。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、全ての妊産婦が安心して妊娠・出産できる環境づくりに取り組んでいく。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 731

事務事業名称	乳幼児健康診査事業									
測定年度	2023 (R5) 年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち								
	実行計画名	15-4.健やかな育ちを支える仕組みづくり								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業		区分	一般事務事業
事業期間	1979(S54)年度		年度	～	年度まで	
根拠法令等	母子保健法					
関係補助金名称	新生児聴覚検査補助金			サンセット	2021(R3)年度	～ 2023(R5)年度
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	各種健診の対象児 ①乳児一般健康診査(1歳未満) 乳児後期健康診査(9か月～1歳未満)②4か月児健康診査(4～6か月未満)、1歳6か月児健康診査(1歳6か月～2歳未満)、2歳6か月児歯科健康診査(2歳6か月～3歳未満)、3歳6か月児健康診査(3歳6か月～4歳未満)③二次健診(発育・発達等経過観察が必要な児)④新生児聴覚検査(生後2日～1か月)				
	サブターゲット	各種健診の対象児の保護者				
	ターゲットが抱える課題	成長過程で、発育、発達の助言や支援が必要になる場合がある。				
	ターゲットが抱える課題	児の成長や発達状況に応じた、育児や発達のアドバイスを必要としている。				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。					
事業概要	①個別健診(乳児一般健康診査、乳児後期健康診査) ②集団健診(4か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳6か月児健康診査)、集団健診未受診児に対して健診案内の再通知及び保健師による家庭訪問の実施 ③二次健診(健診A・B、眼科健診):①②の健診等でさらに専門的な診察が必要な児に、保健センターにて予約制(無料)で実施 ④新生児聴覚検査(平成30年10月から開始、令和2年度から、再検査となった児を対象として、再検査費用を助成)					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が個別健診を受診する。				個別健診を実施する。				
指標設定	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				後期健診受診者数				後期健診受診券の発行				
	単位		%		単位		人		単位		件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
		目標 (見込み)	100	100	100	100	2,569	2,495	2,438	2400	2,569	2,495	2,438	2400
		実績	97.20	97	97	96	2,468	2,269	2,322	2,240	2,560	2,465	2,468	2,440
達成度		96%				93%				102%				

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル②		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が集団健診を受診する。				集団健診を実施する。 (4か月児健康診査)			
指標設定②	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				乳幼児健康診査の受診率 【算出式: 受診児数÷対象者数×100】				対象人数に応じた、実施回数。			
		単位 %				単位 %				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	39	42	42	42
	実績	97.20	97	97	96	96	95.90	98.40	97.80	3	42	41	40
達成度		96%				98%				95%			
ロジックモデル③		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル③		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が集団健診を受診する。				集団健診を実施する。 (1歳6か月児健康診査)			
指標設定③	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				乳幼児健康診査の受診率 【算出式: 受診児数÷対象者数×100】				対象人数に応じた、実施回数。			
		単位 %				単位 %				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	37	40	40	40
	実績	97.20	97	97	96	94.90	93.60	96.70	95.53	49	40	44	42
達成度		96%				96%				105%			
ロジックモデル④		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル④		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が集団健診を受診する。				集団健診を実施する。 (2歳6か月児歯科健康診査)			
指標設定④	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				乳幼児健康診査の受診率 【算出式: 受診児数÷対象者数×100】				対象人数に応じた、実施回数。			
		単位 %				単位 %				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	36	41	41	41
	実績	97.20	97	97	96	0	83.30	85.10	88.08	0	41	39	39
達成度		96%				88%				95%			

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル⑤		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が集団健診を受診する。				集団健診を実施する。 (3歳6か月か月児健康診査)			
指標設定⑤	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				乳幼児健康診査の受診率 【算出式: 受診児数÷対象者数×100】				対象人数に応じた、実施回数。			
		単位 %				単位 %				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	38	42	42	42
	実績	97.20	97	97	96	85.80	86.90	88.70	90.44	50	42	43	43
達成度		96%				90%				102%			
ロジックモデル⑥		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル⑥		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が二次健診を受診する。				二次健診を実施する。			
指標設定⑥	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				受診率 【算出式: 受診者数／案内発送数×100】				対象人数に応じた、二次健診の実施回数			
		単位 %				単位 %				単位 回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	52	52	52	52
	実績	97.20	97	97	96	92.80	90.30	92.70	94.40	45	48	48	47
達成度		96%				94%				90%			
ロジックモデル⑦		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル⑦		保護者が安心して子育てが出来、乳幼児が心身ともに健やかに成長する。				対象者が新生児聴覚検査を受診する。				新生児聴覚検査を実施する。			
指標設定⑦	指標説明	この地域で、今後も子育てをしたいと思う親の割合 【算出式: 該当者÷アンケート回答者×100】				新生児聴覚検査受診者率 【算出式: 受診者数／出生数 × 100】				受診券配付数(母子健康手帳発行数)			
		単位 %				単位 %				単位 件			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	100	100	100	100	2,857	2,781	2,723	2,454
	実績	97.20	97	97	96	91.70	92.10	92.30	92.88	2,734	2,551	2,625	2,394
達成度		96%				93%				98%			

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	8.08
再任用	0.00
任期付職員	0.08
会計年度任用職員	7.36
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	68,090	80,776	64,174		
	会計年度任用職員	25,069	22,997	26,074		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	93,159	103,773	90,248		
	物件費計	57,898	60,923	59,973	69,719	86.0%
歳出計		151,057	164,696	150,221		
歳入	国庫支出金	0	225	225	224	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	225	225	224	
一般財源（物件費に充当されるもの）		57,898	60,698	59,748	69,495	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症が感染症法5類相当に引き下げられたことを受け、本事業は引き続き感染対策を講じながらも、1回の健診案内人数を増やし、予約変更の受付等を工夫した。これまで案内人数を制限していた影響で受診時期が遅延していた健診があったが、すべての健診で本来の時期に戻すことができた。受診率については、コロナ流行前と同水準に戻った。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も市民が安心して子育てができるよう、必要な乳幼児健診の回数を確保し、実施していく。次年度途中より健診場所が保健センターから市駅前行政フロアへ変更するため、円滑に健診受診ができる環境を整えることに努める。

事務事業実績測定調書

R5調書番号 933

事務事業名称	まるっとこどもセンター運営事務									
測定年度	2023(R5)年度			部	子ども未来部			課	まるっとこどもセンター	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5
総合計画体系	基本目標		9.施策体系外							
	施策目標		99.施策体系外							
	実行計画名									

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間	不明	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称			サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	子ども相談課職員			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	課の運営を円滑に図る必要がある			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 （課題が解決した状態）	課の運営が滞りなく円滑に進む				
事業概要	課の運営業務				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標設定	指標説明												
	指標種類												
	指標数値	目標 (見込み)											
		実績											
	達成度												

3. 人員体制 (人)

	R5実績
正職員	4.99
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	3.72
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

		(千円)				
		R3決算額	R4決算額	R5決算額	(参考)R5予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	12,178	38,825	39,396		
	会計年度任用職員	10,685	11,157	9,466		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	22,863	49,982	48,862		
歳入	物件費計	3,931	2,325	3,155	4,129	76.4%
	歳出計	26,794	52,307	52,017		
	国庫支出金	0	56	77	77	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
歳入	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	56	77	77	
一般財源（物件費に充当されるもの）		3,931	2,269	3,078	4,052	

5. 総括的分析

総括的分析	職員間の情報共有に努め、円滑に業務できるよう体制を維持している
-------	---------------------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	毎日の朝礼や夕礼、毎月のセンター内会議の他、グループウェアの積極的な活用による情報共有を行う。またペーパーレス化やDXの取り組みを進め、効率的に業務が遂行できる体制を構築していく。